令和６年度学校評価アンケートのまとめ

学校評価アンケートは、本校に在籍するすべての生徒、保護者等および教職員を対象に実施した。「そう思う」「まあまあそう思う」を肯定的な回答として集計しABCDで評価した。

【保護者等】

肯定的評価が高い項目：「学校経営」「学習指導」「特別活動」

また、「生徒の悩み等について相談に応じている」という項目の評価も高かった。

一方、「環境教育」等については子どもと話すことが少なく学校での取り組みがわからない等の意見もあり、他の項目についても選択肢の「わからない」の回答が多かった。

【生徒】

肯定的評価が高い項目：「学習指導」「生徒指導」「その他」

一方、「進路指導」「特別活動」「人権指導」の項目はやや低い。質問の内容が難しかったことや、生徒数が少ない（分母が小さい）こともあり学校評価アンケートの実施方法に工夫が必要である。

【教職員】

肯定的評価がすべての項目において高い。

一方、「学校図書室」「環境教育」については評価に差があった。本校の図書館は「図書室」という位置づけであるため質問方法の検討が必要である。日常の通常政争時間が無いたの教員も環境教育について意識しにくいという意見もあった。各教科の中で環境教育を意識的に実施することも必要である。

【まとめ】

調査対象人数が少ないため調査統計としては参考程度の結果となるが、概ね学校評価の設定項目に良い評価となった。

保護者等の評価は生徒からの情報となるため家庭でのコミュニケーションが学校評価に大きく影響している。また、質問の文言が生徒や保護者等にわかりやすいように工夫する必要がある。学習指導においては高い評価であったが、ICT機器の活用等をさらに推し進めすべての生徒がわかる授業の実践・検討が必要である。「わからない」という回答が多い項目については学校からの情報発信が不十分であることが考えられるので今後検討する必要がある。